



私の認知症治療の目標について

医師 大神 博央

今回は私の認知症治療の目標についてお話します。認知症は慢性的で不可逆的な病気でありますので、ややもすると治療の目標を見失いがちです。一昔前は「認知症は治らない病気なのに治療は必要なのか」とか「そんな治療はない」と断言される人もいました。ここでは私の個人的な目標をお話します。

人は誰しも年老い死んでいきます。老年期に入ると、食事、生活習慣、運動などで健やかに老いる準備をすることや、自分の「死」に備えて家族に遺言を残すなど準備が必要とされます。心理学においても、「死」の準備をすることは、老年期における重要な心理的課題といわれています。

戦中・戦後を切り抜けたご老人は、「家族に迷惑をかけんで死にたい」と言われる奥ゆかしい方が多いような気がします。しかし我が国では、死について考えることを本人も家族も忌避する宗教観があるせいか、事前指定書などで自分の終末期にどこまで延命してほしいとか、終末期の人工栄養はどうするかなどを書き残している人は少ないように感じられます。ましては自分が認知症になる可能性を考えている人もまだまだ少ないのではないのでしょうか。

現実問題として誰しも「死」は迫ってきます。今後の15年間で認知症患者数は1.5倍の450万人以上となります。医療の基本的な目的は「延命」にあります。果たして認知症医療における「延命」のみが患者さんとその御家族の幸福につながるのでしょうか。

「幸せ」とは漠然とした感覚です。患者さんやそのご家族も「こんな認知症治療が自分たちには最適です」と医療者に希望するのは困難なことのようと思います。私は、「本人が苦しみがなく、穏やかな精神状態であること」、「家族(介護者)と遺恨を残さないこと」を患者さんの幸せと考えています。よって次が目標です。

1. 日常生活動作（歩行、入浴、排せつ、着替えなど）が一人でできる期間を少しでも長く維持すること。これは早期の発見・治療介入によってより達成できます。また早期から生活指導を行うことも重要です。
2. 患者さんとの治療同盟（治療の内容を説明し、協同で治療にあたること）、さまざまな認知症の行動心理症候の治療（特にこれは重要です！）、場合によっては一時的入院などで、本人・介護者共に穏やかで、その関係に破たんをきたさないようにサポートすること。家族に迷惑をかけたくないというのが患者さんの切な希望と考えています。
3. 苦痛のない終末期を提供すること（日常生活動作の介助、身体合併症の予防・治療）

院内の風景



今年は暖くなるのが早くて良かったなーと思っていたら、4月に入り朝・晩の冷え込みが厳しい今日この頃です。なんか気候が変ですね？そんな中ですが、花の咲き出しは早いようです。例年5月のゴールデンウィーク頃に咲く藤の花が、今年はもう蕾をふくらませ、中には既に咲いている箇所もあります。ハナミズキも準備が出来ています。ご家族の皆様が、面会等で当院へお越しの際に、いずれかの花が満開で迎えてくれると嬉しいです。

自立支援医療費

精神保健福祉士 金古 幸代

2012年9月発行のふれあいで、若年性認知症と様々な社会資源について簡単にお話していますが、今回は9月に取り上げた社会資源の中の一つ『自立支援医療費』について、少し詳しくお話したいと思います。

通常、医療保険では医療費の自己負担が3割ですが、この制度は、加入している保険(国保・社保)に関わらず、窓口でお支払い頂く医療費が3割→**1割負担**となり、医療費の自己負担が軽減されるというものです。この制度を利用するにあたってはいくつか注意点がありますので、以下に並べていきます。

- ①世帯(同一保険証)での収入により、1ヶ月の医療費に上限が設定されています
- ②精神疾患の為に**通院する場合にのみ**適用できます(入院にかかる費用は対象外です)
- ③各市町村窓口へ申請が必要です
- ④医療機関・薬局を1ヶ所のみ指定できます
- ⑤申請には診断書が必要となります
- ⑥**有効期間は1年**です(1年毎に更新の手続きと**2年毎に診断書の提出**が必要です)

若年性認知症に限らず、精神疾患の治療には継続的な通院が大切になってきます。それに伴い、継続的な医療費の負担が問題となり、医療費が高い為に継続して通院する事が出来ず、途中で治療が中断してしまうといったケースもあります。継続して必要な治療を受ける事が出来るように、患者様・ご家族の皆様が安心して通院治療に専念出来るように、この制度を活用して頂ければと思います。



ふきのとうだより

気候の良くなってきたこの頃、デイケアでは例年以上に活動的な毎日を送っています。毎年、この時期には花見などの屋外行事を多く取り入れ、溜め込んでいた冬の元気を発散しています。

今年はさらに勢いがつき、食に対しても幅が広がってきました。散歩のついでにと“つくし”を摘んで袴を取り佃煮にしたり、戴いた“ワラビ”を灰につけ灰汁をとり調理したりと女性陣を中心に活躍されています。今までの経験を活かして、若い職員にも伝授して下さっています。皆さんにとっては、普段からやっていた当たり前の事です。しかし、そんな当たり前の事が若い職員には初めての事だったりするので、話が盛り上がり皆さんもとてもイキイキとした表情をされています。私たちの知らない色々な事を沢山知っている皆さん。でも、きっかけがないと皆さんの知っている“当たり前の事”がなかなか聞けないので、これからも色々な方面への活動を多く取り入れ、私たちには貴重な皆さんの“当たり前の事”を伝授してもらいたいと思っています。

写真は、中野川に八重桜を見に行った時に用意したお弁当です。肌寒い日だったのでふきのとうに戻ってからいただきました。



医療法人百花会 上野公園病院

通所リハビリ ふきのとう
居宅介護支援センターうえの

ホームページアドレス
<http://www.uenokoen-hospital.jp/>
E-mail
uenokoen-hp@qiga.ocn.ne.jp